

茨城男子2年ぶり、京都女子2年連続の優勝。

瀬戸内海の鬼ヶ島を成敗したのは坂東武者と京おんなだった。

第14回全日本リレー
オリエンテーリング選手権大会
2005年12月18日(日)
岡山県笠岡市白石島

茨城男子 接戦を制する

「誰が最初に来るのか？」

最終コントロール近くが見渡せる会場の一角に、茨城県、愛知県、東京都の選手団が集まってアンカーの到着を今か今かと待っている。

中間の状況では茨城・小泉が2分ほどリード。その後ろを愛知・松澤、東京・山本が激しく追い上げている。一応のリードはあるものの、テレインは見通しが悪く、ワンミスが大きなタイムロスに繋がる。どこで大逆転がおこってもおかしくない。それはレースを走り終えたチームメイトなら誰だって知っている。

「やったー！」歓声を上げたのは茨城メンバー。小泉が誘導レーンに姿を見せた。松澤や山本の追撃を振り切り、茨城県男子が2年ぶりの優勝を決めた瞬間だった。

茨城男子の走順は前回優勝の2年前と同じく1走・佐々木、アンカー・小泉。今回2走を走ったのは伸張著しい高橋雄哉。高橋は先日行われたインカレロングでも個人優勝を果たしており、いま乗りまくっている選手だ。

2位の愛知と3位の東京は秒差。長いリレー展開の中の、ほんのひと呼吸の違いがメダルの色を分けた。

男子選手権

- 茨城 2:36:19
佐々木良宜 - 高橋雄哉 - 小泉成行
- 愛知 2:38:35
田中公悟 - 稲葉英雄 - 松澤俊行
- 東京 2:38:47
山本真司 - 篠原岳夫 - 山本英勝
- 大阪 2:48:36
中村貴史 - 諏訪高典 - 小林康浩
- 静岡 2:51:29
李敬史 - 村越真 - 和久田好秀
- 埼玉 2:52:23
高橋善徳 - 柳下大 - 安田太郎



接戦を制し栄冠に輝いた茨城県男子 (高橋雄哉・小泉成行・佐々木良宜)

独走・京都女子

宮内佐季子、番場洋子。日本女子の中でもエース格の2名を擁する京都女子は、はじめから優勝筆頭候補だった。彼女たちの勢いに対抗できる唯一の対抗馬は埼玉県。しかし、直前になり埼玉県女子選手2名が病欠となり埼玉女子はリレーが組めなくなってしまった。

こうなったらもう京都女子を止める手立ては無い。1走・宮内佐季子が中間地点からダントツのトップに立つと、そのまま他のチームを圧倒。2走・番場洋子も他を圧倒するタイムを叩き出し、2走終了時点で、2位のチームと12分もリードを広げる。3走の寺嶋貴美江も快走を見せ、終わってみれば2位と13分もの差をつけ圧勝した。京都女子は2連覇。

しかし番場洋子は最近になって関東地区へ住居を移した。来年の全日本リレーでは自らが京都女子への刺客となるのかもしれない。来年の女子選手権は面白いことになりそうだ。

女子選手権

- 京都 2:17:50
宮内佐季子 - 番場洋子 - 寺嶋貴美江
- 東京 2:30:50
志村直子 - 渡辺円香 - 深沢博子
- 大阪 2:44:09
澤地未来 - 松本知佐子 - 森澤寿里
- 愛知 2:52:56
工藤千晶 - 落合志保子 - 志村和子
- 千葉 2:56:00
花木睦子 - 宮沢絵美 - 宮本知江子
- 茨城 2:56:44
武村法 - 千葉妙 - 高野麻記子



三重県ベテラン男子・小八重善裕



京都女子、力を見せ付けてウイニングラン (番場洋子・寺嶋貴美江・宮内佐季子)

三重ベテラン男子 連覇

1 走・伊藤誠厚、2 走・小八重善裕、3 走・伊藤哲夫。三重県のベテランはこの走順のまま前年度の埼玉大会でも優勝した。いわばゴールデンラインとでもいうべき走順。しかし個々の成績を見ると、ベテラン層は個人タイムのバラツキが大きい。連覇した三重県だが、決して安泰とは言えないだろう。

男子ベテラン選手権

- 1 三重 2:34:55
伊藤誠厚 - 小八重善裕 - 伊藤哲夫
- 2 千葉 2:42:46
大塚校市 - 鈴木榮一 - 石井龍男
- 3 埼玉 2:45:29
小笠原揚太郎 - 海老沢正 - 奥山景得

ナニワおばちゃんのト根性

女子ベテランは元々出走者数が少なかった上に、リレーにしては少しコースが厳しすぎた。このため神奈川が繰上げスタートになり、リレーをつないで完走できたのは大阪ただ 1 チームという結果となった。筆者であり今回のコースプランナー・木村は反省することしきり。

しかし、ナニワのおばちゃんたちはやってくれた。なんとかリレーを繋ぎ、最後は競技終了時刻の 18 秒前にフィニッシュに飛び込み無事完走。この女子ベテランの貴重な獲得ポイントが大阪府の団体総合得点に積み増された。その結果、なんと大阪府は団体総合得点で愛知・京都に並んで同点 2 位に浮上したのだ。ナニワおばちゃんのト根性が掴んだ、団体総合の 2 位の座。値千金の完走劇だった。

女子ベテラン選手権

- 1 大阪 4:19:42
四宮寿美子 - 浦野陽子 - 辻村紀子
- 2 神奈川 3:49:56 (繰上げスタート)
高橋明美 今井栄 大場節子



大阪ベテラン女子チーム
走り終わって、着替える間も表彰式に引っ張り出され、そのまま帰りの臨時船にまで連れて行かれた。

ジュニア男子は京都

ジュニア女子は東京・神奈川

ジュニア男子を制したのは京都府。京都大学の学生の速さが他を圧倒した。この調子で春のインカレまで突き進んでいきそうな調子だ。

2 位の神奈川には高校生の宇野夏樹、3 位の愛知は全員東海高校生。若い世代の活躍が都道府県の総合獲得ポイントに大きく寄与している。

ジュニア女子を制したのは東京・神奈川の連合チーム。粒の揃った精鋭が結果を残した。

男子ジュニア選手権

- 1 京都 1:42:58
大西康平 - 能勢晃司 - 津國真敏
- 2 神奈川 1:51:03
宇野夏樹 - 荒川溪 - 真壁啓司
- 3 愛知 2:00:02
河村健太郎 - 桜井郁也 - 伴毅

女子ジュニア選手権

- 1 東京 + 神奈川 2:46:50
日名有砂 - 新妻道 - 高橋香織
- 2 京都 2:54:35
坂本涼子 - 西田真梨子 - 中島明日香
- 3 愛知 3:04:35
岩橋愛 - 青山由希菜 - 水野利枝子

シニアは東京と千葉が連覇

男子シニアは東京が連覇を飾った。

加賀屋博文が東京でシニアクラスを走るようになって、頭一つ抜け出した感だ。

女子シニアも千葉が連覇。子供を連れての表彰式もこのクラスの風物詩になってきた。

男子シニア選手権

- 1 東京 2:46:39
利光良平 - 藤生考志 - 加賀屋博文
- 2 埼玉 2:50:34
早野哲朗 - 福田雅秀 - 羽鳥和重
- 3 大阪 2:51:50
川前紀尚 - 山根祥延 - 瀧川英雄

女子シニア選手権

- 1 千葉 2:46:38
小林正子 - 長谷川恵子 - 広江望
- 2 静岡 2:55:42
佐藤智香 - 村越久子 - 北原静香
- 3 大阪 3:04:17
岩水加代子 - 瀧川朋子 - 青柳紀子

団体総合優勝は東京都

今年も東京都が団体総合優勝を獲得した。多くのクラスで上位を占めるだけの人材の豊富さが東京都の強みだ。しかしながら、東京都は個別のレースではどこも優勝できていない。

昨年度の埼玉大会では、ME/MS/MJ/WJ の 4 クラスで優勝し、圧倒的な力を見せた東京都だったが、今回は 2 位との差は僅か。

2 位には愛知・京都・大阪が同点で並んだ。団体総合の争いは戦国時代に突入した。

- | | | |
|-----|------|------|
| 1 位 | 東京都 | 29 点 |
| 2 位 | 愛知県 | 26 点 |
| 2 位 | 京都府 | 26 点 |
| 2 位 | 大阪府 | 26 点 |
| 5 位 | 茨城県 | 19 点 |
| 5 位 | 神奈川県 | 19 点 |

(木村佳司)